

28) 黙想会終了ミサ 説教 2020年5月4日 (月)

朗読 使徒言行録11：1-18

福音 ヨハネ10：11-18

兄弟姉妹の皆さん、「わたしには、この囲いに入っていない他の羊もいる。その羊をも導かなければならぬ」とイエスは言われました。

このことは、弟子たちにとって大きな挑戦でした。彼らは自分たちの輪の中にいることに慣れ切っていました。ユダヤ人に向けて話すことに慣れていました。当時の決まり、規程にそって生きることに慣れていました。

しかし、イエスはイスラエルのためだけではなく、すべての時のすべての人のために命を捧げるために来られたのです。

イエスはあなたのため、私のため、現在の私たちのためにも来られたのです。

イエスは、信仰に生まれたばかりのペトロを説得する必要がありました。自分の意思ではなく、神の御旨を生きることを教える必要がありました。そこで、今日の朗読箇所にあるように、イエスはもうひと押しされ、聖霊による油注ぎを与えられたのです。

ペトロは三度、同じヴィジョンを見ました。ペトロは、清くない動物を屠って食べなさいと三度も言われました。

「とんでもありません、主よ。絶対にダメです。そういう決まりがあります。あなたの決まりです。私はこれを守って生きて来ました。これからもそうしないといけません。とんでもないことです、主よ！」

私たちは幾度、「とんでもない」と言うのでしょうか？ 幾度、自分自身で妨げを作ってしまうのでしょうか？ 「できません。私にはこれは無理です」、「どうやっていいのかわかりません」と幾度、私は考えたことでしょうか。

神はペトロにヴィジョンを与え、3人の人を送って確証を与えられました。

興味深いのは、自分の仲間たちからペトロが、「あなたは割礼を受けていない者たちのところへ行き、一緒に食事をした」非難されたことです。

彼らにとってペトロがしたことは、禁じられていたこと、清くないことでした。

しかし、カイザリアから迎えが来た時、仲間たち（兄弟たち）の6人もついて行ったのです。6人もです。私はこれまでこの箇所を読んでも、6人が同行したということを読み飛ばしていたようです。目が見えていませんでした。

彼らがコルネリオの家に着くと、ペトロは説教をはじめました。ペトロが命の言葉を語り始めると、何が起こったのでしょうか？

私はあまりに嬉しくて、家族に、友人に、司祭たちに福音を告げ知らせたくなくなってしまいます。

ペトロがまだ話している最中に、聖霊が彼らの上にくだったのです！ ペトロの言葉を聞いていた人たちが、聖霊で満たされたのです！

ここでペトロはすっかりコントロールを失ってしまいます。これはいいことだ、と私は思います。自分の中で神が働かれていることを感じ取ることができるのは、素晴らしいことです。神は私たちの限界よりも大きな方です。私たちの懸念よりも大きな方です。神がご自身を啓示されるのを感じるのは素晴らしいことです。

みことばが人の心に種として撒かれ、太陽や雨として聖霊が注がれると、人の中で変化が起こります。種が人の心の中で育ちはじめるのです。

今日の詩篇（42）は本当にぴったりですね。そうです！ 私の心は生きておられる神を慕い求めるのです。

神に渴き、生ける神を慕い求める人には、みことばが告げ知らせられなければなりません。

イエスはご自身ですべての地に福音を宣べ伝えず、使徒たち、弟子たちにお任せになりました。人間を信頼してみことば、つまり神ご自身を告げ知らせることをお任せになりました。

皆さん、今日5月4日をもって三週間近く続いたこの黙想会を終了します。私自身も、非常に集中した時間を持つことができました。このようなことが可能になったことに感謝いたします。

今、皆さんにひとつのことをお勧めしたいと思います。皆さんはこぼ三週間、みことばを深く知ろうとしてきました。心に残ることや思い出したことなど、ノートに書いてきました。20分、30分、あるいは1時間をこのために用いました。

これで黙想会は終わりますが、マリアのようにここで体験したことやみことばを心の中に留めておいてください。

そうするなら、この「みことば」が聖霊を磁石のように引きつけ、あなた方の中でみことばが育っていくでしょう。神があなた方の中で育つことをお望みになっているのです。私たちは30倍、60倍、100倍の実りをみることでしょう。

このミサ聖祭は、特別に皆さんの意向のために捧げます。神は、あなたの「特別な意向」をご存知です。私たちにできないことも、神にとっては問題ありません。永遠、全能の神にとっては。

（訳者から：明日からもごミサ中に、皆さんの名前が書かれたリストは続けて奉獻され、祈られます。名前を申請するのが遅くなった方も、どうぞご安心ください。）